

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は急速に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

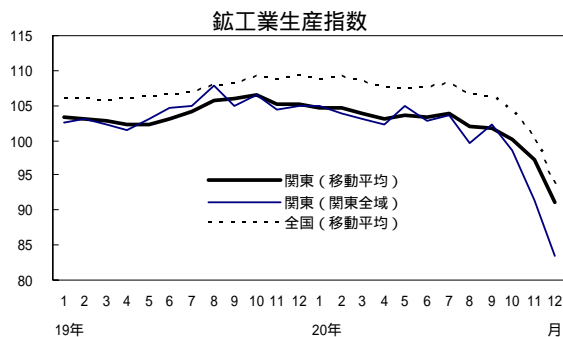
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 20 年 11 月)	今回 (平成 21 年 2 月)	
景況判断	弱まっている	急速に悪化	
鉱工業生産	減少	極めて大幅に減少	
個人消費	やや弱含み	緩やかに減少	
雇用情勢	悪化しつつある	急速に悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。(関東全域)

輸送機械は、海外向け普通乗用車及び普通トラックを中心に、大幅に減少している。化学は、自動車向け合成ゴムや排気ガス浄化用触媒が受注減により、減少している。一般機械は、新興国向けシヨベル系掘削機械や液晶テレビ用のフラットパネル・ディスプレイ製造装置を中心に、大幅に減少している。電気機械は、ゲーム機用等の半導体・IC測定器の受注減や中国向け電力変換装置の反動減もあり、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。

2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

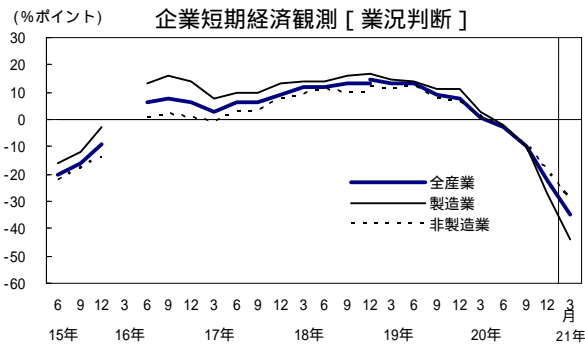
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
輸送機械	15.2	0.0	18.6	17.0	2.7
化学	13.4	0.4	3.3	4.6	
一般機械	13.2	4.8	10.2	10.6	6.7
電気機械	7.8	1.1	5.4	6.3	9.3
食品・たばこ	7.1	3.1	1.4	1.8	
鉱工業	100.0	1.5	10.5	10.2	5.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

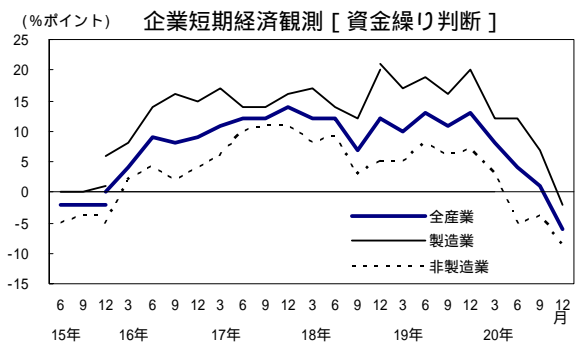
2. 10~12月期は速報値。

3. 化学、食品・たばこの在庫指数は公表されていない。

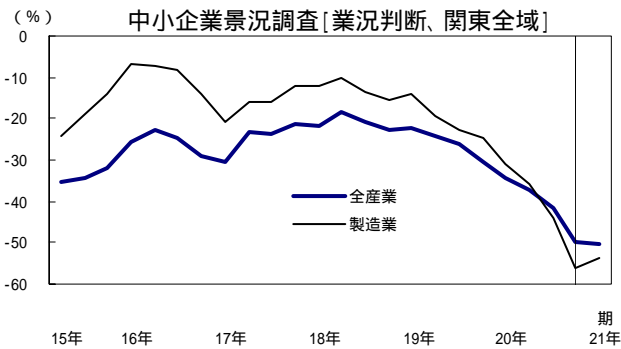
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。
旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

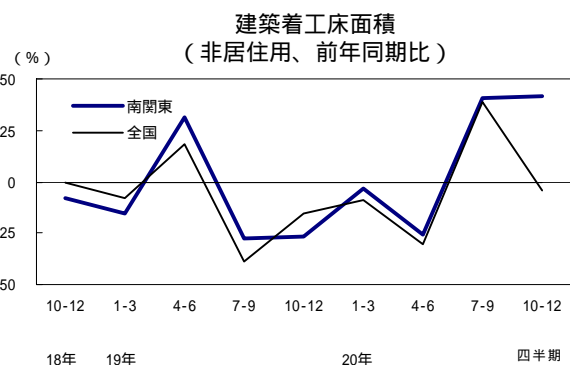
「現在の注文は、3か月前から比べると半分以下で、4割強くらいの仕事になっている。非常に困っている(一般機械器具製造業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	17.9	9.7(0.2)
製造業	24.7	8.4(1.4)
非製造業	3.6	12.4(2.1)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。
調査対象は神奈川県



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

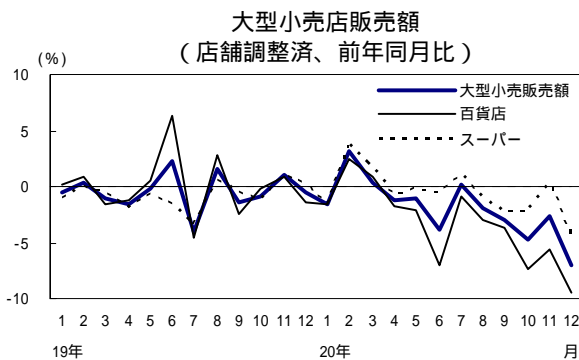
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、衣料品が全般で振るわず、海外ブランドの高額商品等の身の回り品も低調だったことから、前年を下回った。11月は、食の安全・安心や内食志向等により飲食料品は堅調だったものの、コート等の動きが鈍く衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。12月は、気温が高かったことや消費マインドの低下から衣料品全般が不調だったことや、身の回り品では一部アクセサリーに動きはあったものの全体では振るわず、飲食料品も不調だったことから、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の1月の売上高は前年同月比9.6%減となっている。

スーパーは、値下げ商品や円高還元セール等により、飲食料品は好調だったが、衣料品、家庭用品が振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

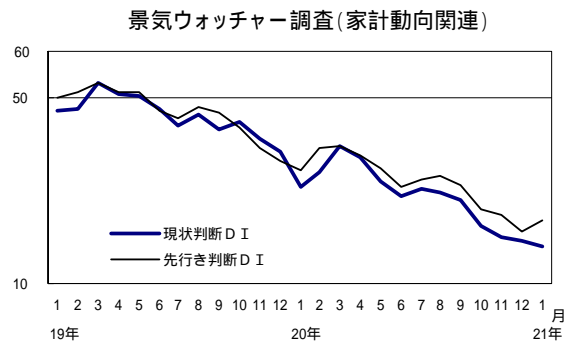
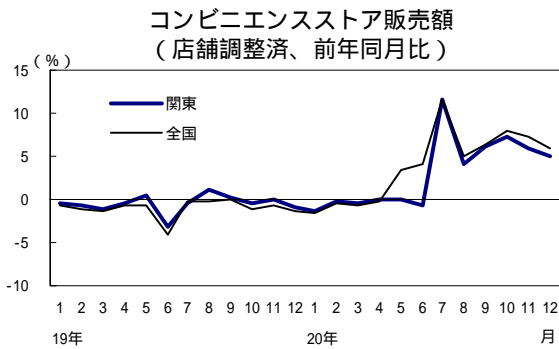
「来客数も減少しているが、それ以上に客が買物にかなり慎重になっている。低価格の福袋や低単価で楽しめる物産展は好調で前年微増だが、クリアランスでは商品単価を抑えたり、まとめ買いが無くなった。結果的に総売上は昨年以上に大きく低迷している(百貨店)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.4	2.1	1.5	5.0
百貨店	0.2	3.8	2.3	7.6
スーパー	1.1	0.4	0.7	2.4
コンビニ	0.7	0.2	7.2	6.0
景気ウォッチャー	34.7	32.7	29.4	20.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。20年10-12月期は速報値。コンビニは関東全域。

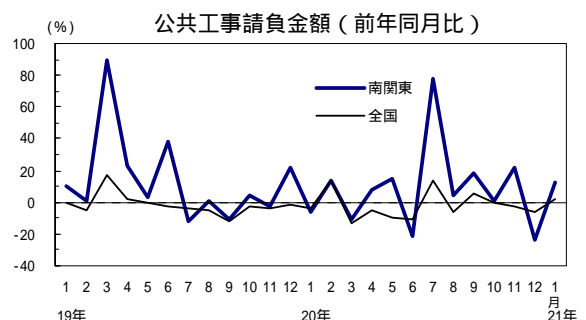
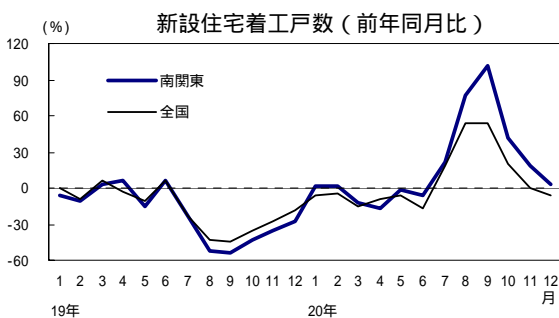
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いいため、貸家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を上回っている。

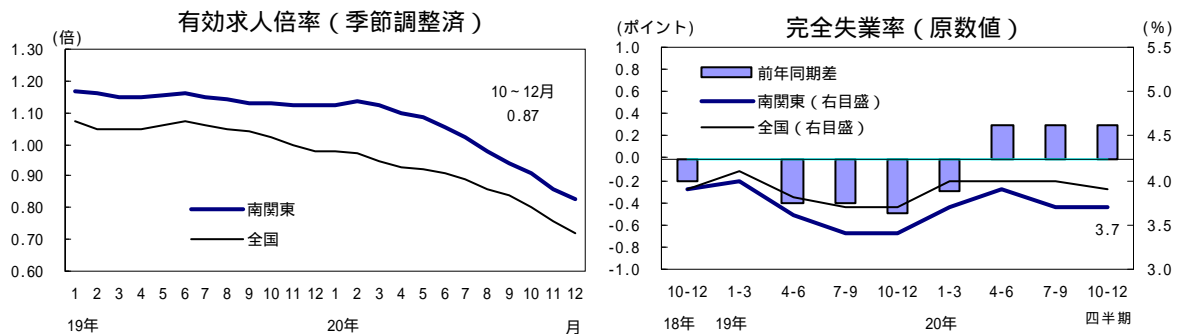


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

「企画参加のキャンセル等、予算削減が進行し、採用数未定で動きが停滞している。中堅企業から中小企業へと影響が拡大している（求人情報誌製作会社）」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

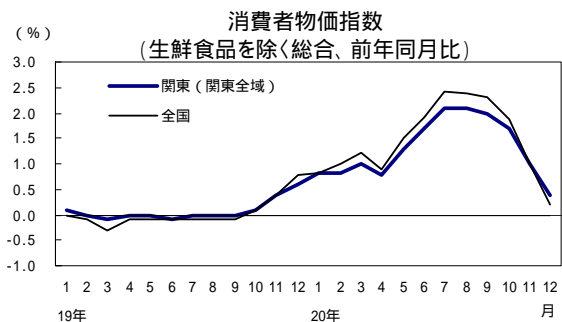
(2) 企業倒産は、件数が増加し、負債総額が大幅に増加している。

1月に、件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数	1,031	1,113	1,211	1,212	420
(前年比)	2.8	13.3	19.3	16.1	28.8
負債総額	5,860	8,129	56,348	12,313	2,908
(前年比)	13.3	62.6	524.5	145.4	15.0



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・周りの景気は良いとは言えないが、事務系派遣については、企業は既に不必要な人材は派遣受け入れをしていないので、受注は落ちていない（人材派遣会社）

<先行き>

・年が明けてから住宅ローン金利が大幅に下がり、物件価格の値下げ、住宅ローン減税の見直しが盛んに報道されるなど、住宅不動産購入者にとって良いニュースが多く、客の動きがかなり出てきている。この先の景気はやや良くなる。（住宅販売会社）

